

地域おこし協力隊の活動日記

飛騨市内で活動している地域おこし協力隊員
市内に存在するさまざまな地域資源を活用し、地域の特色を活かした産業の創出を図ります



地域おこし協力隊の活動内容紹介

〜続・ワラビ粉活動〜

隊員 前原 融

飛騨市の皆様、こんにちは！

早いもので、私が飛騨市の地域おこし協力隊として活動を始めてから1年と2ヶ月経ちました。協力隊の人数も4人に増え、広報に掲載される頻度は下がりましたが、山之村での活動は元気に続けさせて頂いています！

さて、今回は2年目初の活動日記ということで、ワラビ粉活動の進展などを少し紹介させて頂きます。

まず、大きな一歩として今年はワラビ粉生産用のワラビ畑の整備に着手する事ができました！しかも昔ながらの山焼きという手法で！

火を入れることにより、ワラビ以外の植物をおさえ、かつ灰を肥料とし、根茎を掘り起こしやすい土壌を作る事ができる最も原始的で効率的な方法です。



(←火入れの様子)

今回の火入れは地元の人にご協力を頂き実現する事ができました。また、初回ということで安全面に最大限配慮し、面積も約20×20m程の小規模で行いましたが、今後はさらに火入れ面積を拡大し、火入れのイベント化などでもできれば良いなと一人妄想に耽っています。

また、販売先についても少し変化がありました。ワラビもちの原料としての販売についてですが、品質は評価して頂けるものの、販売できる量が少ない事がネックになっており、なかなか難しい状況です。こればかりはワラビ畑や生産体制の整備を地道に行っていくしかないと考えています。

一方で、ワラビ粉を糊として使いたいという話を何件か頂きました。もともとワラビ粉生産最盛期には、そのほとんどが和傘・提灯などの骨組みと和紙を貼り付ける糊としての需要だったという話もあり、現在和傘、提灯の生産者さんにサンプルをお渡しして、ワラビ粉糊の品質を確かめてもらっています。

今まではワラビもちにすることは

り考えていたので、糊としての品質がどうなるのか：ドキドキしながら返答を待っている今日この頃です。

それから、ワラビ粉の副産物であるワラビ縄（ゴガス縄）の話。

これはわらび粉生産の過程で出るワラビの繊維を縛って縄にしたものです。昔は建材や、船を波止場に繋ぎ止めておく縄として使われており、一説によると自然素材の中でもっとも強い縄だとか。今年の春、雪解けを待つ間に少し作ってみました。繊維が固く、短いので作るには相当根気が要ります。試作ワラビ縄ですが、ワラビ粉の師匠でもあるおばあちゃんに見てもらったところ、改善点や、昔生産していた時の様子を教えてもらいました。今年の冬は本腰据えてワラビ縄生産にも取り組んでみたいと思います！



(←試作したワラビ縄)